

答え合わせ・解説

問1	答え 3 生糸	蚕の繭を加工して作られる繊維製品は、明治時代以降、日本の貴重な外貨獲得源として輸出の中心的役割を果たしました。特に1909（明治42）年には、それまで1位だった中国を抜いて世界最大の輸出量を記録し、日本の国際的な経済的地位を高める要因となりました。
問2	答え 1 全国どこへ送っても一律の料金で、切手を貼れば誰でも手軽に利用できる点	江戸時代の飛脚は距離や緊急度によって料金が異なり、一般の人々にとっては高価で不便なものでした。明治の郵便制度は「全国一律料金」と「切手の事前購入」という近代的な仕組みを導入したことが画期的であり、新橋・横浜間の鉄道開通などに見られる交通網の整備とともに、近代日本の情報基盤を支える役割を果たしました。
問3	答え 4 中江兆民	中江兆民は明治時代に活躍し、フランス流の自由・平等思想を広めました。選択肢にある吉野作造は大正時代の民本主義者、本居宣長は江戸時代の国学者、小林多喜二は昭和初期のプロレタリア文学者であり、明治期の自由民権運動の理論家としては中江兆民が最も適切です。
問4	答え 3 特定の藩の出身者たちが権力を握り、自分たちの意向で政治を動かしていた点	当時の政府は薩摩（鹿児島県）や長州（山口県）などの出身者が実権を握る「藩閥（はんぱつ）政治」を行っていました。この一部の勢力による独占的な政治運営に反発した人々が、国民の代表による議会（国会）の設置を求めて立ち上がったことがこの運動の大きな要因です。
問5	答え 3 フランス流の急進的な自由主義を理想に掲げ、地方の地主や豪農らの支持を集めて激しい運動を展開した。	自由党は、イギリス風の穏健な改革を求めた立憲改進黨に対し、フランス流の主権在民や急進的な改革を主張した点が大きな特徴です。その運動は農村部の地主層に浸透し、各地で激しい民権運動が巻き起こる原動力となりました。このように、党の背景にある思想モデルや支持層の違いを把握することが、当時の政治状況を理解する鍵となります。
問6	答え 3 帝国主義	産業革命によって大量生産が可能になった欧米諸国は、自国の製品を売るための市場や、製造に必要な安価な原料を確保する必要がありました。そのため、軍勢力を背景に他国を支配し、植民地を広げる動きが強まりました。この対外拡張政策を帝国主義と呼びます。
問7	答え 4 小村寿太郎が全権として交渉し、韓国における日本の優越権を認めさせた。	ポーツマス条約では、外務大臣であった小村寿太郎が全権として交渉にあたりました。この条約により、日本は韓国（大韓帝国）に対する指導権・優越権を認めさせたほか、南樺太の割譲や、長春以南の鉄道利権などを獲得しました。しかし、ロシアからの賠償金を得ることはできなかったため、帰国した小村は国内で激しい批判を受けることとなりました。
問8	答え 2 北海道のアイヌ民族	バードは当時の「未開の地」を探索することに情熱を注いでおり、特に北海道に住むアイヌ民族に対して強い関心を持ちました。彼女はアイヌの人々の生活に密着し、その豊かな精神文化や伝統を克明に記述しました。選択肢にある沖縄や小笠原も日本の歴史において重要な地域ですが、彼女の代表作である『日本奥地紀行』における主要な調査対象は北海道のアイヌ民族です。
問9	答え 4 遼東半島	日清戦争に勝利した日本は、下関条約によって遼東半島、台湾、澎湖諸島を獲得しました。しかし、東アジアへの進出を狙っていたロシアは、ドイツ・フランスと共に日本に対して遼東半島を清へ返すよう要求しました。これを三国干渉と呼び、日本はこの要求を受け入れることとなりました。
問10	答え 1 プロイセン憲法	明治政府は伊藤博文らをヨーロッパに派遣して憲法調査を行わせました。その結果、皇帝（君主）の権限が強いプロイセン（ドイツ）の憲法を手本として大日本帝国憲法が制定されました。
問11	答え 1 秩禄処分や廃刀令によって特権を奪われた士族たちが、新政府の近代化政策に対して強い不満を抱いたため。	明治政府が進めた四民平等や徴兵令、家禄（給料）を廃止する秩禄処分、帯刀を禁じる廃刀令などは、それまで特権階級であった士族の地位を脅かすものでした。こうした政策に対する不満が、征韓論で政府を去った西郷隆盛への期待と結びつき、日本最大かつ最後となる士族反乱へと発展しました。選択肢にある地租改正反対は農民一揆、国会開設要求は自由民権運動、王政復古への反発は戊辰戦争の説明です。
問12	答え 1 10代から20代の若い女性たちと、横山源之助	明治時代の紡績業は日本の輸出を支える主要産業でしたが、その現場では「工女」と呼ばれた若い女性たちが主役となっていました。ジャーナリストの横山源之助は、当時の貧困層や労働者の実態を調査し、その記録を『日本の下層社会』にまとめました。この著書は、華やかな産業発展の裏側にある深刻な労働問題や格差を世に知らしめる重要な資料となりました。
問13	答え 4 筑豊炭田から得られる石炭や、中国大陆から輸入する鉄鉱石の利用に便利な場所だったため。	重工業の発展には、燃料となる石炭と原料となる鉄鉱石の確保が不可欠でした。八幡製鉄所は、国内最大の石炭産地であった筑豊炭田に近く、また地理的に近い中国大陆（大冶鉄山など）から鉄鉱石を運搬するのに有利な海岸沿いに建設されました。これにより、軍事や鉄道建設に必要な鉄鋼の国内生産が進められました。
問14	答え 2 陸奥宗光	日清戦争が始まる直前の1894年、当時の外務大臣であった陸奥宗光はイギリスとの交渉に当たり、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復を成し遂げました。これにより、日本国内で罪を犯した外国人を日本の法律で裁くことが可能になりました。関税自主権の完全な回復は、のちに小村寿太郎によって達成されます。